

令和5年度執行目標 建設部

部局	課・室	番号	執行目標項目	【SDGs】との関連	執行目標の内容	背景・課題・留意点等	項目(単位)	根拠計画等	現況値・実績(見込)値	R5指標・目標値
建設部	指導検査課	1	適正な入札・契約の執行	16	従来から行っている入札の各段階におけるチェックを徹底しつつ、開札においては落札候補者を重点的に確認するなど、事務作業の集中と選択により、引き続き、常に緊張感をもって誤りのない事務執行を行う。加えて、日々、入札発注にかかわる職員が不正防止の認識を深めるよう「木津川市の発注業務に係る職員行動指針」の周知徹底を行い、公平・公正で透明性、競争性が確保された制度の構築に努め、本市入札契約業務に対する信頼確保を図る。また、新規参入業者の入札制限について、今年中に案を作成し、入札業者選定会において協議・決定をいただく。入札資格審査申請書類の効率化・電子申請等の検討を行う。	昨年度は、工事71件、コンサル14件、物品役務43件 計128件の入札を適正に執行した。また、今年度より設計測量業務委託について、前金払制度を採用し、契約業務へ反映させた。入札執行にあたっては、ルーチン作業に陥ることの無いよう、常に緊張感をもって職務に当たっては当然のことながら、業務にかかわるすべての職員が守秘義務の堅持と情報漏洩等による不正行為NOの意識を常に持ち続けることが重要で、「木津川市の発注業務に係る職員行動指針」を引き続き浸透させていくことが必要である。				
建設部	建設課	1	年度内における適切な事業執行	9, 11	令和5年度事業について、積極的に関係者との協議等を行い適切な年度内完了を目指す。 【①木津南北線安全対策事業】工事2件、業務1件 【②木津川台駅前線整備事業】工事2件、業務1件 【③農道橋補修事業】工事2件 【④農業用ため池維持管理事業】業務1件(点検調査95箇所) 【⑤木津山田川線道路改良事業】調査1件	【①木津南北線】城山台地域から木津南中学校への通学推奨経路の安全対策を実施。 【②木津川台駅前線】昨年度に橋脚1基設置完了、橋脚3基設置工事及び積算業務を発注済み。 【③農道橋】昨年度に農道橋2橋(芦原谷橋、小渋川橋)の補修工事を発注済み。 【④農業用ため池】昨年度に97箇所の点検調査を実施。 【⑤木津山田川線】道路改良や歩道の確保に向け、用地等の権利関係の調査を実施。	年度内工事・業務委託等完了件数(件)		5	9
建設部	建設課	2	小川流域における浸水対策の推進	11	小川内水排除施設の令和6年度出水期までの稼働に向け、国、府と連携して事業を進める。 【小川内水排除対策】工事4件、業務1件、設備製作2件 【内垣外地区内水排除対策】工事1件、設備製作1件	・昨年度から内水排除施設用地の造成工事に着手し、内水排除設備(ポンプ)についても製作中。京都府において吸水槽の設置工事を実施中。 ・今年度、国土交通省により放流路などの堤外側施設の整備を実施。 ・今年度内に内垣外地区内水排除施設の整備を完了。	年度内工事・業務等完了件数(件)		1	7
建設部	まちづくり事業推進室	1	城陽井手木津川バイパスの整備促進	9, 11	国が事業主体で整備を進める一般国道24号城陽井手木津川バイパスの早期効果発現のため、プロジェクトチームによる協力体制の構築、事業進捗にあたっての連携の充実を図る。第2次木津川市都市計画マスタープランに位置付けている、国道163号との結節点における官民連携による「にぎわい拠点整備」の具体化のため、地元事業者を中心とした機運醸成に向けたプラットフォームの立ち上げ、また、不動川公園の広域的防災拠点整備に向けての基本構想(案)の策定を進める。	令和元年度に事業化された「命を守る道路」である一般国道24号城陽井手木津川バイパス事業については、事業区間が約1.1kmに及び、早期の効果発現に向け、事業主体である国及び関連する京都府と連携し、円滑な事業進捗が図れるように努めている。その様中、本市としては、令和3年度から、プロジェクトチーム内に4つのワーキンググループを設置し、4項目のまちづくり方針に関し議論している。今年度は、そのうち、「にぎわい拠点整備」及び「不動川公園広域的防災拠点整備」に関する調査費を確保し、更なる検討を進めて行く。	業務件数(件)		-	2
建設部	まちづくり事業推進室	2	国道及び府道等の新設改良事業の整備促進	9, 11	国及び京都府が実施する道路の新設・改良にかかる関係機関や地元住民等との連絡調整により事業進捗を図り、早期完成を目指し事業に取り組む。 ・国関連：国道24号電線共同溝整備事業 ・府関連：府道天理加茂木津線道路改良事業(大野バイパス、鹿背山浜地区歩道整備)、国道163号道路整備事業(銭司～木屋)、山手幹線整備事業(精華町植田～吐師) ・木津川市内道路(府道・市道)の再編	国・府関連事業においては、事業主体と連携し早期完成に向け事業進捗が図れるように努めた。市内道路の再編においては、残りの路線の早期移管に向け京都府及び関係機関等との調整を行った。				
建設部	施設整備課	1	市営住宅使用料等の収納率向上	11	・積極的な定期的督促状の送付 ・電話、訪問等による納付促進 ・連帯保証人に対する連帯債務通知等の送付 ・口座振替の推進	令和2年度99.1% 令和3年度99.5% 令和4年度97.9% 市営住宅管理適正化の観点から「受益者負担の原則」及び「入居者の公平性」に鑑み、収納率向上に資する取り組みを検討し、歳入の確保につなげる。	市営住宅使用料現年度収納率(%)		97.9	99.0
建設部	施設整備課	2	木津川市営住宅清水団地建替え事業の推進	11	第2次木津川市営住宅ストック総合活用(長寿命化)計画に「建て替え」と位置付けられている清水団地の建替え工事を、今年度より実施する。今年度は、1棟2戸の建替え工事を行う。また、当該建替え後の住宅に移転いただく方を、片側空家住棟入居者から2世帯決定し、令和6年度の建替え工事(2棟4戸予定)に繋げることとする。	昨年度は、今年度からの工事着手に向けて、実施設計業務を行った。また、今年度の1棟の建替え工事を行うために、片側空家住棟の入居者1世帯に、他の市営住宅へ仮移転を行ってもらった。本事業の進め方は、空家になった住棟を順次建替えることであるが、そのためには、翌年度に空家が生まれるような移転協力を求める必要がある。				
建設部	管理課	1	橋梁長寿命化計画に伴う修繕の推進	11	橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁健全度判定Ⅲ・Ⅳ判定の橋梁18橋の内、4橋(姫子橋、1032号線1号橋、2-8号線3号橋、大谷2号橋)の補修工事、2橋(志天北・南橋)の架替工事を施工する。	令和4年度に横断歩道橋長寿命化修繕計画及びトンネル長寿命化修繕計画を策定した。今後、計画に基づき順次補修を施工していくが、Ⅲ判定(早期措置段階)の梶ヶ谷隧道は、大仏鉄道跡地でハイキングコースでもあるため、補修については景観等に配慮する必要がある。個別施設計画(橋梁長寿命化修繕計画(H27.3策定、毎年点検結果を反映)、横断歩道橋長寿命化修繕計画(R5.3策定)、トンネル長寿命化修繕計画(R5.3策定))に基づき、より計画的な維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁等を補修し適正な維持管理を行っていく。	橋梁長寿命化達成率(%)	橋梁長寿命化修繕計画、横断歩道橋長寿命化修繕計画、トンネル長寿命化修繕計画	44.4	77.8

令和5年度執行目標 建設部

部局	課・室	番号	執行目標項目	【SDGs】との関連	執行目標の内容	背景・課題・留意点等	項目(単位)	根拠計画等	現況値・実績(見込)値	R5指標・目標値
建設部	管理課	2	公園施設長寿命化計画に基づく対策工事の推進		市内の公園施設について、誰もが安全に安心して利用できるよう、適切な施設点検、維持補修等の予防保全的管理の下で、公園施設長寿命化計画に基づいた既存ストックの長寿命化対策として、木津川台公園及び兜谷公園の園路舗装工事を実施する。	市内の都市公園については、計画的な配置や整備を行ってきたが、近年は既存の公園施設の老朽化が進行するなど、適正な維持管理・更新が課題となっている。そのため、厳しい財政状況の下、計画的に安全・安心を確保しつつ、重点的・効率的な維持管理・更新を行っていく必要がある。	工事件数(件)	木津川市公園施設長寿命化計画	-	2
建設部	管理課	3	山城町地籍調査の実施		一般国道24号城陽井手木津川バイパス整備事業における道路用地の用地調整及び用地買収の円滑化を図るため、道路事業の影響が想定される範囲で引き続き地籍調査を実施する。令和5年度は、平尾・神童子地区の後期工程及び椿井・上粕地区の前期工程に取り組む。	国による道路事業の円滑化に資するため、本市が地籍調査(122ha)を実施することとし、令和2年度から着手した。令和4年度までに延べ24haの調査を完了し、平尾・神童子地区(49ha)の前期工程を終了した。令和5年度は、これまでに経験がない規模(平尾・神童子地区:49ha、椿井・上粕地区:49ha)となるため、スケジュール管理及び地権者対応に十分留意して実施する。	地籍調査完了率(%)	地籍調査実施計画	19.7%	59.8%
建設部	都市計画課	1	学研木津東地区のまちづくり支援		令和4年度に選定された業務代行予定者を中心として地権者による土地区画整理組合設立・事業認可を早期に実現できるよう、技術的援助等を行う。	当該土地区画整理事業について、適切な時期に都市計画変更等を行えるように、また当該土地区画整理組合の設立に伴う各種協議・手続き等が滞りなく進められるよう、関係機関と連携を密にし、スケジュール感を意識しながら事業推進を支援する。				